2022. 1　　（令和4年）

営農だより

謹賀新年

本年もよろしくお願いします

聖護院だいこん(上)　と　えびいも(下)

●●● 安全・安心な農産物生産は生産者の責任として ●●●

農産物の農薬使用状況は専用の帳簿(用紙)に記録し、開示(明かに)出来ることが必要です。茶・米・京都府のブランド認証野菜は、記録内容の確認を行っています。他の出荷販売農産物についても、出荷先から記録の点検証明や残留検査結果を請求事例が増加しています。

掲載内容について、ご不明の点は最寄りの支店営農担当・営農経済センターまたは、本店　営農部営農指導課へお尋ね下さい。

JA京都やましろ

営農部 営農指導課　TEL(0774)62－5890　FAX 62－9450
北部営農経済センター　TEL(0774)64－7200　FAX 64－7205
南部営農経済センター　TEL(0774)76－0003　FAX 76－0005

<<<作物別栽培記録は生産者の技術記録と消費者への安全の証として明日へ前進の糧>>>

水　稲

稲作の継続に係る近年の取組課題

昨年の気象と温暖化対策

昨年は早い梅雨入りの割に、空梅雨気味に経過し夏の水不足が懸念されました。8月は6日から24日まで曇雨天が続き全般には生育が停滞し、山沿いでは葉いもちが発生しました。その後は徐々に回復し、9月後半からは晴天に経過しました。台風の影響も少なく、山城地域の主力品種であるヒノヒカリは出穂は少し遅れたものの、登熟期は好天が続き稔実が順調に進み、比較的無難に収穫を迎えました。

山城では近年の夏の高温が回避でき幸いでしたが、府北部のコシヒカリ・キヌヒカリ栽培地域では、日照不足に伴う“いもち病の発生・生育遅れ・捻実不足等影響が大きかったようです。

温室効果ガスの増加の影響とされる、気温の上昇や気象の変動幅の拡大は、農業にも大きな影響を与えます。これまでどおりの栽培を漫然と行うのではでなく、現状を十分把握し状況に応じて対処するよう心掛けることが大切です。

稲作にとって望ましい天候は晴天のうちに時々降雨があり水不足にならないこと、気温が15℃～33℃（育苗は12℃～30℃）の範囲にあることです。このため育苗期では低温と被覆下の高温対策、本田生育期では連続曇雨天時の病害対策、夏期の高温時の潅漑水の掛け流し、害虫発生への対応、適正施肥の励行など注意が必要となります。

近年の除草課題

近年の稲作では、除草剤の使用が初中期1回と残草・再発併せて1回の計2回範囲では除草しきれない事例が見受けられます。除草回数の増加は生産費の上昇や環境負荷の増加になります。除草剤の効果が発揮できない原因として表1の事項が考えられます。

それぞれのほ場での原因に対する対策としては、表2のような対策が考えられます。 特に、②については冬季に実施することになります。

表1　除草剤の効果が発揮できない原因

①除草剤使用後の水管理が不適切による場。
②漏水により水位が保てないため、水を入れ続ける場合。これには、均平化や畔の管理が出来ていない場合と鋤床層の破壊による漏水があります。
③畦畔の雑草管理が不十分なため、畦畔から雑草が侵入する場合。
④潅漑水により水路から流れ込む場合。
⑤毎年の雑草が多いため発生量多く、発生期間も長く除草効果が続かない場合。

表2　対策事項

①除草剤使用後4～5日間は湛水状態の継続確保が必要です。
②鋤床層の破壊の補修と畦畔の漏水補修、溢水防止へのかさ上げなどが必要です。
③畦草の草刈りと刈草の除去を行います。
④水路からの流入防止策を実施します。
⑤適切な除草を励行し数年掛かりますが草の発生量の減少を図ります。

○冬期間に実施する対策

1　表2の②漏水防止対策の計画的実施

②以外の対策も水田で稲作を続ける上での基本事項です。適切に実施しないと、年々稲作が続け難くなります。

稲作中の水田の状況を思い出し、冬の間から必要な対策を整理しておきましょう。

2　ジャンボタニシ(スクミリンゴガイ)対策

ジャンボタニシの発生は年々拡大をしており、冬季の対策は表3のとおりです。

表3　ジャンボタニシ(スクミリンゴガイ)対策

①発生地では、稲わら・土壌改良資材等の腐熟促進と併せて、1・2回のロータリー耕を実施し貝の損傷を図ります。ロータリーの回転は早めに、トラクターの走行はゆっくりとするのが効果的です。
② トラクター等農機具の移動時には、土と共に貝を運ばないよう器具の清掃を行いましょう。
③水路の清掃と貝の破壊処分を同時に行いましょう。

野　菜

やましろ野菜の生産進展状況

山城地域では多様な出荷野菜が生産されており、その種類は30種を超えます。JAや行政で組織している山城地域特産物育成協議会では野菜以外の品目を含めて表3の品目を推進品目としています。

このうち,京都府ブランド認証野菜は,認証制度に基づき生産・出荷されています。

九条ねぎは統一ネギ部会において(GGAP(Global Good Agricultural Practices＝国際農業生産工程管理)を取得して、ネギパックセンターで包装出荷販売しています。

また、カットネギの需要も多く、2021年には加工ラインの増設を行い販売対策の強化も進めています。

冬季の水田を活用して栽培する**花菜**は、首都圏への出荷を進めており、栽培者の人数も増加している品目です。

オリジナルのスタンドパックを作成して出荷しており、他産地との差別化も進んでいます。

また、ブランド認証品目ではありませんが、**万願寺とうがらし**は、採種から種苗の供給もJAが行っており、山城産の万願寺とうがらしの味や品質を好んで買い求める消費者も少なくありません。

表３　生産推進野菜

京都府ブランド認証野菜

九条ねぎ　京みず菜　伏見とうがらし　花菜
聖護院大根　えびいも　京たけのこ

山城地域推進野菜(上記を含む)

こまつな　ホウレンソウ　万願寺とうがらし
茄子　トマト　きゅうり　イチゴ　シュンギク
キャベツ　ブロッコリー　堀川ごぼう

果樹・花き推進品目

イチジク　柿　原木椎茸
コギク　湧水花き　花壇用苗物

現在、JAでは表4の**統一部会**(米・部会扱い含む)とその支部が活動するとともに、支店単位での部会や出荷組合が活動しています。他に、統一部会には至っていませんが、京都やましろ新鮮野菜のネギ生産者グループを新たに共同出荷者に位置づけ販売増加を進めています。

茄子は、選果場に持ち込めば、選別・出荷までJAが行うため、栽培に専念できます。

2022年度の営農に向けて、新たな栽培品目の検討を進めてみてはいかがでしょうか。

表4　統一部会の状況(2021年)

部会名	部会員数	部会員所属市町村
万願寺とうがらし部会	83	宇治市　城陽市　久御山町　八幡市　京田辺市　井手町　宇治田原町　精華町　木津川市(木津町・山城町・加茂町)　和束町　南山城村
茄子部会	72	宇治市　城陽市　久御山町　八幡市　井手町　精華町
ネギ部会	27	城陽市　久御山町　八幡市　京田辺市　井手町　宇治田原町
花菜部会	45	宇治市　八幡市　田辺市　井手町　宇治田原町　精華町　木津川市(加茂町)　南山城村
加工野菜部会	11	宇治市　久御山町　八幡市
えびいも部会	103	宇治市　城陽市　久御山町　八幡市　京田辺市　井手町　宇治田原町　精華町　木津川市(木津町・山城町・加茂町)
特別栽培米	134	宇治田原町　笠置町　南山城村を除く全市町
京たけのこ部会	29	八幡市　京田辺市　井手町　木津川市(山城町・木津町)
とまと倶楽部	8	城陽市　京田辺市　井手町　木津川市(山城町)

茶　樹

昨年の茶生産概況

4月10日の晩霜被害の影響が残る中、2021年産茶が新茶シーズンを迎えました。

平素の生産者の皆様のご努力と堅調な需要により12月2日現在の全販売は、数量1,453t(前年比 102%)・金額 2815 百万円(前年比 124.9%)・平均単価 1,937 円(前年比 122%)5.6 億円増となりました。

◆一番茶：晩霜害の影響を受け数量は前年比 13%減の 704t となりましたが手摘み玉露を除く全茶種において昨年度の平均単価を上回りました。

◆2番茶：2茶全体の生産量は前年比142%の 246t・金額は前年比 272%の 491 百万円となり平均単価は 191%の 1992 円と碾茶2を中心に安定した価格で推移しました。

◆秋番茶・秋碾茶：全国的な需給バランス及びドリンク原料の確保等の需要もあり、管内秋番茶においては南部地域を中心に150t前年比 130%の扱いとなりました。また、秋碾茶においても 253t 前年比 117%と堅調な取引となり、全体では、販売量 102%、販売額124%、平均単価 122%となりました。

2021年度茶種別販売実績【12/2】

茶種名	販売量 (t)	販売金額 (千円)	平均単価 (円)	前年対比(%) 数量	金額	平均単価
宇治てん茶	10.6	129,194	12,121	104	104.9	100.8
初てん茶	291.4	1.103,299	3,786	91	129.9	137.8
手摘み玉露	2.0	34,196	16,978	87	83.3	96.2
玉露	36.6	131,112	3,586	84	96.2	114.8
かぶせ茶1	61.4	190,104	3,098	69	91.8	132.8
煎茶1	134.0	301,004	2,917	83	103.7	125.1
刈直1	168.4	84,698	403	91	98.2	107.5
一番茶小計	**704.4**	**2,363,607**	**2,929**	**87**	**111.3**	**128.4**
てん茶2	165.7	408,463	2,465	208	366.6	176.0
かぶせ茶2	21.0	29,745	1,401	61	99.9	163.0
煎茶 2	59.8	53,316	891	101	136.3	135.1
刈直 2	98.0	39	400	223	297.0	133.3
2番茶小計	**246.7**	**491,564**	**1,992**	**142**	**272.6**	**191.4**
秋番茶	149.3	55,912	375	130	134.9	103.6
秋てん茶	253.3	188,911	746	117	117.2	99.9
その他	100.0	15,374	154	97	93.8	96.4
合　計	1,453.7	2,815,368	1,937	102	124.9	122.0

2021年度の課題と2022年度に向けて

◆2021年度は晩霜害とコロナ渦の影響を受け1番茶は宇治てん茶を除き減産しましたが、2番碾茶の販売量が倍増、販売額3倍となり、全体を押し上げました。初てん茶・2番てん茶の原料需要が増進していると見られますが、霜害も広範囲で減産したこともあげられます。また、海外輸出も見据えた茶商の選択買いが顕在化しており、各茶種ともに品質格差による価格帯での取引が見受けられています。

◆2022年度産茶に向けては、京都府茶業会議所・生産協議会をはじめとして関係団体との連携強化を一層進めるとともに、茶商からの情報収集の強化を図り産地間競争に残れる様、情報発信を行ないますので生産者各位の御理解と御協力をお願い致します。